

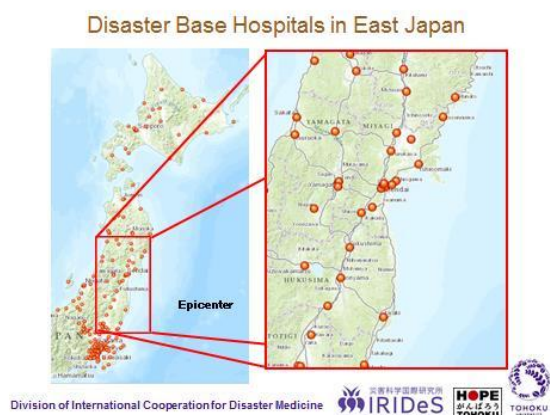
世界銀行・日本共同プロジェクト アジア・アフリカ 5 か国防災担当者会議で講演しました (2013/5/26)

場所：東北大学さくらホール（仙台）
テーマ：「巨大災害からの教訓」

6月26日（水）に仙台市片平の東北大学さくらホールで、世界銀行・日本共同プロジェクトのアジア・アフリカ5か国防災担当者会議「巨大災害からの教訓」が開催され、江川新一教授が講演しました。

東北大学の原信義理事が震災復興におけるアカデミアの役割と災害科学国際研究所の実践的防災科学の紹介をされ、ウガンダのエクウェル・ムサ防災大臣がわが国の災害対応に学ぶべきことと災害を科学的にとらえることの重要性を話され、2015年の世界防災会議にむけて協調していく決意が表明されました。災害科学国際研究所の各部門から15分ずつ発表があり、災害医学研究部門からは江川新一教授が「広域大規模災害における医療対応」について講演しました。過去の繰り返し訪れる災害によりわが国の災害医療体制が整備されていたこと、東日本大震災で対応できたこと、できなかったこと、今後の予想される大災害に対する災害医療の取組を紹介しました。とくにGISシステムを用いて災害拠点病院の地理的分布を独自に図示できたことはわが国の災害医療体制を理解してもらうのに大きく役立ちました。

各研究部門から災害・津波のメカニズム、災害時に寄せられる支援のロジスティックス、地震に強い建築、防潮堤破壊のメカニズム、地理情報システムによる復興の考え方、地域のコミュニティーと大学の連携などについてわかりやすい発表があり、有機的につながった研究所だからこそできる内容でした。エクウェル防災大臣からは、政策決定者とアカデミアの連携をうまく行かせるためにはどのようにするべきかという質問が投げかけられました。2015年の世界防災会議開催 (<http://www.un.org/apps/news/story.asp?NewsID=44980#.UcutMpyBLHZ>) にむけて大きな一歩となりました。



災害拠点病院の分布



講演する江川教授

文責：江川新一（災害医学研究部門）